

2020年度研究会活動報告 「ナリッジ・スペース研究会」

1. 研究課題

ナリッジ・スペース研究会

2. 概要・目的

本研究会は、法学・経済学・社会学などの社会科学分野における研究手法の学際化を図り、他の研究分野との協働によって新たな知見を開くことを目的としている。

3. メンバー（構成）

齋藤洋（東洋大学法学部教授）

鈴木崇之（東京都立大学法学部助教）

水村陽一、滝口雄太、沓澤岳、吉田拓矢（以上、東洋大学大学院）

4. 今年度の成果報告

(1)次年度以降の活動計画に関する意見交換

日 時：2020年9月9日

実施方式：オンライン会議

5. 2020年度の活動報告(今年度末までの予定も含めて)

以下、次年度以降の活動計画に関する意見交換の要旨である。

研究手法の学際化及び他の研究分野との共同という本研究会の目的から、共同研究の必要性は認識されていた。しかし、構成員各々の研究もある中で、その実践は言うに易く行うは難しという状況であった。また、本研究会はその構成員の多くが若手研究者及び大学院生であることから、予算の僅少さも問題となっていた。そこで、期限を設けて目標を設定し、それに取り組むことで継続的な研究を試みることとなった。

具体的には、令和4年度科学研究費助成事業へ応募するため、その応募締切である2021年秋頃までを目途に、応募に必要な事前研究等を完了させる。研究課題についての詳述は避けるが、概ね決定しており、今後の研究会でさらに推敲を重ねていく。